

親準備性の研究（その5）

母親の育児不安をめぐって

岩田 崇（慶応大学）
深谷 和子（東京学芸大学）

目 的

母親が育児行動に際して示す不安を分析し、適切な育児行動を阻害する要件を探る。

方 法

幼児をもつ母親402名に、CAS不安検査を含むアンケート調査を行った。期間は昭和59年7月～9月。

結果の一部

① 児の年齢

年 齢	1歳以下	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6歳～
%	37.5	6.6	8.3	11.9	10.1	12.4	13.2

② 児の性別

性 別	%
男	54.5
女	45.5

③ 母親の年齢

年 齢	%
20 ～ 25	1.0
26 ～ 30	27.7
31 ～ 35	49.3
36 ～ 40	16.5
41歳以上	5.5

④ 学 歴

(%)

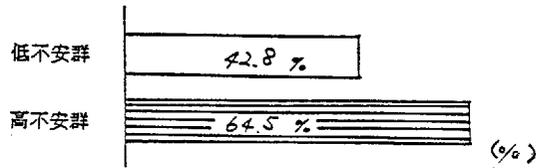
最 終 学 歴	母 親	父 親
中 学 校	7.0	8.4
高 等 学 校	46.6	34.0
短大・専門学校	33.7	10.5
大 学	11.7	44.3
大 学 院	0.5	2.3
そ の 他	0.5	0.5

⑤ 母親の育児不安項目と反応(%)

		4	3	2	1
		よくある	ときどきある	ほとんどない	全くない
+	子どもをおいて外出するのは心配 ではない	29.2 └── 70.3 ─┘	41.1	24.5 └── 29.7 ─┘	5.2
	子どものことでどうしたらよいか わからなくなることがある	8.2 └── 63.5 ─┘	55.3	31.3 └── 36.5 ─┘	5.2
	子どもがわずらわしくてイライラ してしまう	5.5 └── 53.7 ─┘	48.2	36.8 └── 46.3 ─┘	9.5
	子どもを育てるためにがまんばか りしていると思う	2.5 └── 28.6 ─┘	26.1	52.4 └── 71.4 ─┘	19.0
	自分ひとりで子どもを育てている のだという圧迫感を感じてしまう	3.6 └── 23.7 ─┘	20.1	51.0 └── 76.4 ─┘	25.4
-	自分は子どもをうまく育てている と思う	6.7 └── 55.8 ─┘	49.1	36.0 └── 44.2 ─┘	8.2
	子どもはけっこうひとりで育って いくものだと思う	18.0 └── 75.7 ─┘	57.7	19.5 └── 24.3 ─┘	4.8
	育児によって自分が成長している と感じられる	30.7 └── 88.1 ─┘	57.4	9.9 └── 11.9 ─┘	2.0
		1	2	3	4

注) +項目は4~1点, -項目は1~4点とカウント加算点を算出, 育児不安仮尺度得点とする。
得点8~16を低不安群(25.9%), 21~27を高不安群(26.6%)とする。

⑥ 不安水準と児の顔色の心配（いつも、わりと気になる）



⑦ 不安水準と子育て

	すくすく 育った	わりと 病気をした	しょっちゅう 病気をした	慢性病が あった
低不安群	65.7	20.6	4.9	8.8
高不安群	55.7	26.4	10.4	7.5

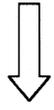
(%)

結 論

- (1) 先行研究を利用した育児不安仮尺度と CAS 不安検査を用いて測定した結果、両者に高い相関が見出された。即ち、意識水準での「子どもがわずらわしくて、イライラしてしまう」等の育児に対する不適応状態は、一般的な不安水準の高さと関連をもつことが明らかにされた。
- (2) 育児不安の高い母親は自身も疲れ易く病気がちであると訴え、自己実現を（結婚・育児等により）断念した等の心身の緊張状態、欲求不満状態の存在が、

推定される。

- (3) 育児不安の高い母親は、子育てに当たって、望ましい育児行動が行えず過敏で硬直し、自分の判断に自信をもてない傾向が見られる。
- (4) 育児不安の高い母親は、結果として育児に成功していない者が多い。即ち、通院の回数も多く、基本的な生活習慣の形成も不十分で、わが子を「すくすく育った」と評価しえない者が多い。
- (5) 一般的な不安水準の高さに応じて、個別に予防的に適切な育児指導がなされる必要があろう。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



目的

母親が育児行動に際して示す不安を分析し、適切な育児行動を阻害する要件を探る。